



寄せ書きで集落の人たちの想いを取材



集落の人から手づくりイヤリングのプレゼント



しな布の糸づくりを教わる

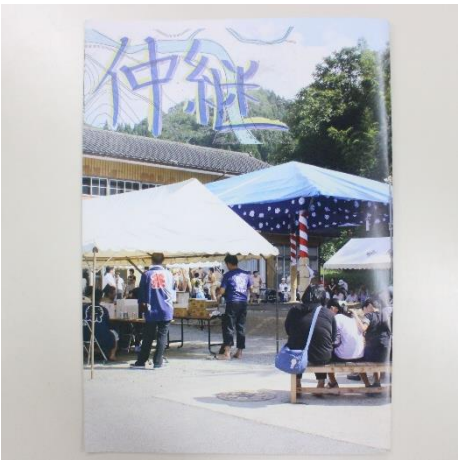


風神祭当日は、法被を着て参加

大学生たちが 中継集落で 過ごした1か月



集落の人たちと冊子づくりのミーティング



完成した冊子「仲継」



集落の人たちに向けて報告会を開催



力士たちの迫力ある取り組みも取材

大学生たちは、集落の人たちの想いを聞き出すためにある方法を思い付きます。それは「あなたにとって中継とは？」というテーマで寄せ書きをしてもらうこと。集落で出会った人たちから、心に秘めた想いを書いてもらいました。

また、時々集落の人たちを交えてミーティングを行い、冊子づくりの進捗状況や、生活の中の困りことなどを共有していました。

9月1日、風神祭奉納相撲が開催されるこの日は、朝から集落が活気づき、大学生たちもその空気を感し取っていました。いざ本番が始まると、力士たちの熱気、会場の盛り上がりとともに、冊子づくりの取材にも熱が入ります。

こうして取材を終え、3人の大学生たちは見事な冊子を完成させました。そのタイトルは「仲継」。

これは、「お世話になった中継の人たちの仲を継ぐ(つなぐ)ことをしたい。」という想いから名付けられました。

9月10日には、集落の人たちに向けて完成した冊子の報告会を行い、1か月間のインターンを終えました。

また、冊子は印刷製本され、後日中継集落全戸に配布されました。



盆踊りで自己紹介



高校生と一緒に盆踊りの準備



滞在する住居前で集落の人と顔合わせ

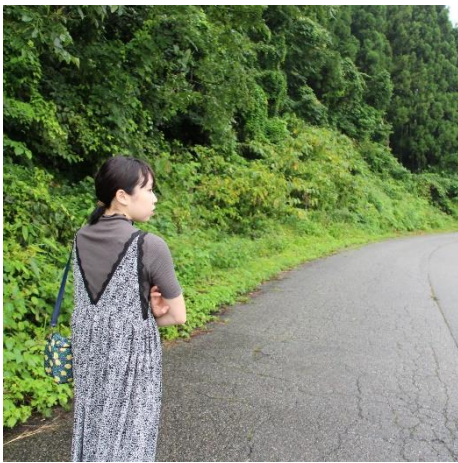


3人で仲良く昼食

大学生たちが 中継集落で 過ごした1か月



土俵づくりに参加し、俵づくりをお手伝い



集落の人から話を聞くため集落内を散歩



相撲の練習初日は土俵上でお神酒をいただく



真剣なまなざしで冊子づくりの勉強

ここからは、3人の大学生たちが1か月間中継集落で過ごした様子を写真とともにご紹介いたします。

8月13日、3人が集落に到着。1か月間過ごす住居で、集落の人たちと顔合わせをしました。

翌日は集落の盆踊り。盆踊りは高校生が運営しているため、大学生も準備作業を手伝い、高校生たちの想いを聞き出します。そして夜になり、盆踊り本番では、集落の皆さんに自己紹介をしました。

盆踊りの翌日は、9月1日に開催される「風神祭奉納相撲大会」の土俵づくりの日。集落の若手が大勢集まり、そこに大学生たちも参加し、土俵に入れる俵づくりなどを手伝いました。

奉納相撲の練習初日には、土俵上での儀式にも参加し、初めて体験することが目白押しでした。

また、「集落の人から話を聞くためには、まず出会わなければ！」と、大学生たちは集落内をよく散歩したそうです。そうして集落の人と話をすると、畑でとれた野菜をもらうことも。そのお礼に畑仕事を手伝うこともありました。

このように集落の人たちと関りながら、大学生たちは、フリーライターの講師を招いて冊子づくりの勉強もしていました。